

第56回NSRI都市・環境フォーラム
(no.296)

『デモクラシーの帝都～東京が世界第一級と
なりえた時代の都市と建築』



松 葉 一 清 氏
武蔵野美術大学教授

日時 2012年9月11日 (火)
場所 NSRIホール

目次

1. はじめに～帝都復興とは何だったのか	5
2. 大正の「現代」～民権論の世相と第1次世界大戦後の世界	7
3. 景観を誇示する都市～「東京節」が謳歌した帝都	13
4. 帝都炎上の惨禍～大震災をたどる演歌	17
5. 復興の速度感～「コノサイ」こそ民意	21
6. 燃え落ちた旧社会～純白のキャンバスの出現	31
7. モダニズムの帝都～復興小学校の奇跡	33
8. モダン行進曲～モボ、モガの昭和東京	35
9. 結び～なにを学び、なにを残すのか	36

※大正から昭和へ、「東京節」「復興節」「コノサイソング」「モダン節」など演歌の実演を交え、東京が震災復興を機にモダニズムの都市を実現した軌跡をたどる。

◆松葉 一清(まつば・かずきよ)氏

武蔵野美術大学教授

1953年 神戸市生まれ

1976年 京都大学建築学科卒、朝日新聞社入社。特別編集委員などを歴任

2008年 武蔵野美大教授（近現代建築・都市論）、現在に至る。

主な著書に、『帝都復興史を読む』（2012年、新潮選書）、『モール、コンビニ、ソーホー』（NTT出版、02年）、『帝都復興せり！』（97年、朝日文庫）、『パリの奇跡』（95年、同）、『近代主義を超えて』（83年、鹿島出版会）がある。

監修、企画、共著に『復興建築の東京地図』（11年、平凡社）、『奇想遺産』、『同Ⅱ』（07、08年、新潮社）、『[[復刻] 実測・軍艦島』（11年、鹿島出版会）。「ムサビのデザイン展」（11年、武蔵野美大美術館）、「同Ⅱ」（12年、同）「近代都市と芸術」（96年、東京都現代美術館、ポンピドーセンターと共催）など美術展の監修も手がける。

谷 大変長らくお待たせいたしました。ただいまから第56回NSRI都市・環境フォーラムを開催させていただきます。

本日は、お暑い中、お越しくささいまして、まことにありがとうございます。

本日のご案内役は、私、広報室の谷礼子でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、本日のフォーラムは、ご案内のとおり、武蔵野美術大学教授でいらっしゃる松葉一清先生にお話をいただきます。本日は、『デモクラシーの帝都～東京が世界第一級となりえた時代の都市と建築』と題してご講演をいただきます。松葉先生は、1976年に京都大学建築学科をご卒業され、その後朝日新聞社に入社されました。特別編集委員などを歴任され、2008年から現職についていらっしゃいます。

関東大震災後、東京は帝都復興を果たし、モダン東京へと変身いたしました。今日は、その辺のお話を先生の弾き語りを交えながら伺えるものと大変楽しみにしております。それでは早速、先生にご講演いただきたいと存じます。どうぞ皆様大きな拍手でお迎えください。(拍手)

松葉 松葉でございます。暑い中をありがとうございます。ご案内がありましたように、帝都復興の話をさせていただきます。

去年の夏以降、平凡社と新潮社から2冊、帝都復興に関する本を出しました。平凡社の時には震災があったからニーズがあるのかぐらいに思って作業をしていました。ちょうど去年の今ごろの物すごく暑い7、8月、東京都心と近郊を走り回っていました。帝都復興時代の建築がどれだけ残っているかという現存調査を、85年ぐらいからやっています、3回目にあたる作業でした。それは平凡社からムックで刊行しました。そして、東北の復興がどうしてこんなに進まないんだろうということを去年の秋ぐらいから痛感し始めました。

NHKの番組はそれなりに真面目に現地に密着してルポもして、言い方はよくないかもしれませんが、「かわいそうだ、かわいそうだ」みたいなものをずっとやり続けた。そのルポをしているリポーターの後ろを見ると、最初のころは瓦れきがあつて、そのうち瓦れきはなくなった。しかし、港のそばでは、堤防が壊れたままで毎日毎日浸水している。復興予算の政府の割り振りが悪いというレポートはたくさんあります。ま

た、その場その場、各地区の復旧計画についての報道はあるけれども、全体像が全然存在しない。3月11日に地震があって、今日で1年半です。復興計画も高台移転の計画も、青図も全然出てこない。福島原発事故で仕方がないかもしれないけれども、どうもおかしいのではないかと思いはじめました。

そこで新潮社に私から話をさせていただいて、『帝都復興史を読む』という新潮選書を出しました。大正12年9月1日に関東大震災が起こって、およそ6年半たって『帝都復興史』という本が出ました。これは高橋重治さんという今でいうとフリージャーナリスト、経済の業界紙記者という感じの人ですが、個人でそれをつくられました。私家版で1冊の厚さが8センチぐらいあり、それが3巻、三千何百ページを一人で書いた。彼は個人の思いを書いたわけではなく、帝国議会も取材をし、歴代の首相にも前書きを書いてもらい、半分公認みたいな形で情報は公共からしっかり確保しています。その本が手元にあったものですから、読み出したところ、物すごい速度で復興をやっていく体制が関東大震災のときにはできていた。9月1日に地震が起こって4週間たたないうちに帝都復興院が設立をされます。9月1日に地震が起こって後藤新平が最初に帝都復興案を語ったのは9月6日です。彼はもちろん東京市長をその前にしていたので、いわゆる大風呂敷と囃された8億円東京大改造計画を立案していたからできたことではありますが、それにしても震災の焼け跡がまだくすぶっているときに、政治家のほうから、こういう東京にするんだというメッセージが出されたわけです。政府の内務省の外郭独立機関の帝都復興院が設立されるまでがその後およそ3週間でした。

そのころ政治がしっかりしていたかということ、地震が起こった日には内閣がなかった。8月の終わりに加藤友三郎前首相が亡くなって、山本権兵衛に首相になるように大命降下したわけですが、組閣できず、地震の起こった翌日に内閣ができました。今とすごくよく似た時代、二大政党があって足を引っ張り合っている。そんな時代でしたが、帝都壊滅という事態を受けて、みんなで復興をやろうという機運が盛り上がった。大正天皇は病身であられたこともあって、昭和天皇が摂政の宮を務められていて、摂政の宮からすごく速いスピードで詔書が出た。東京が余りにひどく焼け落ちたので遷都するんだという噂が広がったときにも、「遷都しないんだ。ここで復旧じゃなくて復興するぞ」という強いメッセージが、摂政の宮、つまりお上から出た。「江戸っ子は昨日のことは忘れやすい」と、その『帝都復興史』に書いています。つまり、災害が

あってもすぐ忘れて、その気になってハンマーを持って立ち上がったというのもそれほど嘘ではない感じで帝都復興に東京あげて突入しました。

それと比べたときに一体どうなっているのでしょうか。つまり、1923年に震災が起こって、それから90年近い歳月が過ぎたときに、何がしかの教訓を学んだ上で、かつての失敗を肥やしにしながら一步ずつ前に行くのが我々の時代の人間だろうと思います。建築界はそうだったはずだと思ったときに、今日のニュースでもまだ何も建っていない海辺の土地ばかり映っていましたが、帝都復興の時代と現在の東日本大震災の後の落差を社会の人に知ってもらいたいというのが、本を新潮社から出していただけないかとお願いした一番の気持ちでした。

1年経ったら少し変わるかなと思って3月11日を待っていましたが、何も起きない。昨日あたりはNHKの「クローズアップ現代」で、見つからない家族を探している人たちの話をやっていました。それは物すごくちゃんとした話でしたが、その一方で、行政、我々のような建築業、建設にかかわっている人間がやるべき仕事はほかにあるはずで、ワークショップに行っている方はたくさんいらっしゃるんですが、その方たちを生かすような行政への働きかけ、行政そのもののあり方を見たとき、現実を凝視しないかのような時間感覚でこのまま行くと東北はどうなっていくのか。日本の21世紀の中でどんな姿で東北に機能してほしいのか、役割を担ってほしいのか、そういうことをちゃんと見定めないまま時間だけが過ぎていく。予算というのは、皆さんもご存じのように、使ったらなくなるのではなくて、時間が経つとなくなるものです。何一つ上屋も建たないうちに1年半の時間が過ぎてしまった。

今日は、そういう愚痴を言うというよりは、昔はこんなに元気だった。元気だったから、私も含めて、少しは爪のあかを煎じて飲まなきゃいかぬだろうという気持ちで見えていただけたらと思います。

NSRIのこの集まりで話させていただくのは2回目です。どちらかというと、今日は聞いて帰っていただいても実務に役に立つことはなくて、大正の歴史、昭和の初めに社会がどうだったかという時代解説の話です。私は大学の授業で、学生たちに今日飲んだ薬が今夜効いたり明日効いたりしないんだ、いつか役に立つことができると言っています。そんなつもりで、日本の社会、これからの復興に対して、何がしかの参考を皆さんで読み取っていただければ幸いです。

仰々しいもの（ギターとマイク）を前に置いてあります。斉藤和義という人が原発

批判の歌をつくって、その後斉藤さんを支持する人たちがいっぱいあらわれて、彼はオリコンのヒットチャートで初めて1位になりました。歌が持っている力をこういうときにも使うべきではないか、あるいは大正時代に強靱な大衆がいたために復興が成り立ったのではないかという仮説をつくってみて、演歌復活を最近やっています。ただ長いので、ちょっと我慢して聞いていただかなければいけないし、歌詞が文語です。歌詞をお見せしますので、歌詞を見て聞いていただけたらと思います。今日は社会と震災復興にかかわるものに限って何曲かやります。

1. はじめに～帝都復興とは何だったのか

(図1)

帝都復興祭が昭和5年にありました。仲見世のところですよ。コンクリートで日本流バザールを復興した東京市の仕事です。そこにこういう「帝都復興」という仮設の塔が立ちました。こんな形で東京は盛り上がっていくわけです。

震災復興、帝都復興というのは何だったのか。公共主体のものと、公共が先にやって、その後民間が応じて立ち上がっていくという2つに分けていいのかなと思います。

東京においては国と東京市が主体で、それに横浜市も入りました。いろんな話がありますが、後藤新平がつくった案は、東京全体の焼け跡を全部国が一度買収して、それから払い下げるという案です。その予算規模が40億円でした。国家財政が15億円規模の時です。最終的に7億2450万円という額になりました。後藤新平が東京市長時代につくった大風呂敷と言われた案が8億円です。大風呂敷が縮んだとか、できぬから大風呂敷だと言われるわけですが、歩どまり9割ぐらいにとまっている。この中には同潤会は、そういうものは入っていませんから、相当な歩どまりだったのではないかと私は思っています。後藤新平について今日みんなで万歳し過ぎているという批判もあります。帝都復興がいかに汚職にまみれていたかとか、そんな話もしていますが、それは余りやってもしょうがないかなと思いますので、今日はポジティブな面のお話をしたいと思います。

帝都復興院は大正12年9月末にはできるんですが、年末に虎ノ門事件が起きて、内閣そのものが総辞職に追い込まれて解散させられます。12月27日の虎ノ門事件は、

難波大助という山口県の大地主、素封家の息子が、入試に失敗するなどして、むしゃくしゃして、帝国議会に摂政の宮が出席する途上を虎ノ門で狙撃した事件です。そんなことがあれば内閣は即日総辞職です。そういうことで12年9月の初めから続いた帝都復興院が主導した復興事業は、そこでひとまず終わりになってしまいます。

その後、復興局という当時の内務省の内局の形で事業は継続します。一番大きかったのは、東京市長だった後藤新平が東京市に多くの有為の人材を集めていました。その人たちの力で実際に復興の現場は進んでいきます。

これで、先ほど司会の谷さんのほうからお話があった「モダン東京」というものが成立をし、それからモボ、モガ、エログロナンセンスの東京というのができ上がっていきます。

一応公共のものは昭和5年3月までにおおむね終わり、それに応じる形で前後して民間の一種のビル需要、公共建築もまたつくられていきます。明治の見よう見まねで西洋建築を修得してきた成果が、このころになると同時代の表現、つまりヨーロッパと同じ時代の建築をやってみようというところまできて、意欲が高まっています。

全部焼け野が原になったので、何を建ててもいい。実は後藤新平も、焼けたことを大喜び、若い建築家も大喜びという、今日とは随分違う話です。後藤新平は、不謹慎というか、江戸を引きずって世界に恥ずべき帝都だったのが、これが焼け落ちたので、どんな新しい都市でもできるというぐらいに小踊りして案を描くわけです。その神経がまともだったのかどうかは難しいところですが、それはそれとして、そうやって自分でやってみよう、ここまで温めてきた構想がこれでできるんだということを思った政治家がいた。しかも、大正の自由主義の世相も知っていた。そういうひとと時代だったので、帝都復興はできたのではないかということです。

復興祭の東京ですが、こんなに人が集まっている。この間のオリンピックのメダリストのパレードも目じゃない。東京中に人が集まって大騒ぎになったわけです。

(図2)

その前段として大正時代は非常に重要な意味があったのではないかと私は思っています。つまり、帝都は壊滅するわけですが、それを復興できたのは大正時代の大量の民衆の高さがあったからだと思っています。

(図3)

大正時代の重要な事項を並べてみました。護憲運動や、軍拡のための増税反対運動が

大正の初めから始まります。シベリア出兵は、ロシアが革命で弱って、ソビエトは国がまだ立ち上がってないから、一丁攻めて行ってやれと、後藤新平がしでかした大失敗です。そのシベリア出兵が1917年にあった。後藤新平が帝都復興案を出したときに、シベリア出兵よりまだから金を使えと言った議員もたくさんいたりした。それから、第1次世界大戦が翌年に終わった。この間ソビエトの革命があります。シベリア出兵のようなことがまたあるだろうというのを当て込んで、軍の兵站、兵隊さんが食べる食料のために米を相場師が全部抑えてしまう。それによって米の価格が高騰する。それで米騒動が起こります。米騒動というのは国内の話のようですが、日本が対外的に強い軍事国家として、国際舞台でキャスティングボードを持っていたということの反映でもありました。

大正天皇が病弱だったこともあって、大正10年になって、まだ若かった裕仁（昭和天皇）が摂政の宮、事実上の国の代表になります。大正12年に関東大地震が起こって、虎ノ門事件もあります。

大正14年、それまでは税金を払っている人しか選挙権がなかったんですが、普通選挙法、男子25歳以上、税金の多寡にかかわらず選挙権が得られます。ただ、女性にはまだ選挙権はなかった。それを通すときに、日本は大野伴睦流の「足して2で割る」のが好きで、選挙法をつくるからというので、治安維持法を一緒に出してしまう。セットでこれが来てしまった。その意味では、大正時代は、ある安定があったけれども、普通選挙法ができると、今のポピュリズムの社会みたいなものになって安定が崩れてしまう。一方、治安維持法で言論風圧が起こってくる。ここで1つの時代が終わっていくのかなという感じはあります。

2. 大正の「現代」～民権論の世相と第1次世界大戦後の世界

(図4)

大正時代を見てみましょう。大正天皇の立太子礼の記念の大正博覧会などいろいろな博覧会が開かれます。建築の人から見ると、奇妙なもの、今でいうとラスベガスの建築みたいなものが次々と建っていく。それまでのヨーロッパのものを学習して都市や建築をつくって来た風潮とは違う、軽やかな形で建築が展開していきます。

銀座も、お雇い外国人、イギリス人のウォートルスがつくった銀座レンガ街。歩廊（アーケード）があって、そこに柳も植わってきて、昔恋しい銀座の柳の風情ができてくる。真ん中に市電が走ります。このような形で都市の成熟化が進んでいきます。す。

（図5）

大正9年に東大の学生たちで日本分離派を結成しますが、大正11年に平和博覧会があって新表現を求める若者たちの表現の舞台になっています。仮設建築ならではの奇妙なものが建ち、自由な風潮が広がっていきます。

（図6）

大正という時代を演歌で見ると、結構成熟していた。明治から大正になったときに、大正時代になって明治の重々しさがなくなって嫌だなという感じが、ある年齢以上の人にありました。それだけ軽やかな時代がやってきた。明治という時代を経て、日清・日露の東アジアの戦争を2つ勝ってある安定に入った。そして軍事的にも東アジアで強大な力を出し始めます。そういうこともあり、社会が安定した中で女性の権利のため平塚らいてうたちが青鞞社を結成する。男のすることはみんなやってみようというので、平塚さんたちは、吉原に登楼する。現代のフェミニストがしないようなことまでやっていました。女性の権利の運動を軽薄だと言うと怒られますが、それまでなかったような軽い文化が出てくる。これは後で「現代節」で歌います。

（図7）

大正7年になると戦争が終わって、「東京節」が出てきます。ラメチャンタラギッチョンチョンでパイノパイノパイ。今日来ている方は年配の方が多いので大丈夫だろうというお話もありましたが、皆さん耳にしたことがあると思います。これは日本には珍しい「東京の景観」を誇る歌です。三菱の一号館や二号館、東京商工会議所、東京海上ビルディング、そういうものが東京駅の駅前、皇居側にそろってくる。添田唾蟬坊という演歌師の息子さんの添田さつきが、有楽町から神田の外語学校へ通うときにその景観を見て歌をつくって、それが日本中の大流行になります。一方で現代と同じような経済万能時代です。レッセフェール、自由経済万能時代ですから、その中で庶民はどうするんだ。庶民はやられているだけでいいのか。それなら、革命のようなことをするのかというと、そうでもない。公共がきちんとしてくださいということで、「のんき節」なんかを見てみると、そういう公共を叱咤する一節があります。

大正時代について長谷川堯さんが『大正建築論』や『神殿か獄舎か』、『都市回廊』を

書いていますが、ちょっと違うのではないかと思っています。長谷川さんが書いた大正論というのは青白きインテリに偏っている気がします。後藤慶二という建築家や、無政府主義者の大杉栄。隅田川をセーヌに見立ててフランス料理屋に集まる『パンの会』もありました。木下杢太郎らです。そして、永井荷風。それから、武者小路の『美しき村』。

演歌を見ていくと、庶民は強靱に生きていて、権利意識が強い。公共がちゃんとやってくれないと、おれたちは生きていけないんだという意識は非常に強く持っていた。そういう社会主義的思想でいうと、有楽町で売文社を主宰していた堺利彦や演歌師の添田唾蟬然坊親子、そういう人たちの「大正」の方がどうもリアルなのではないか。青白きインテリが中野刑務所につながれて、壁をコツコツたたいて信号を送り合ったとか、そんな話より大正の東京の街頭がずっと活気あふれる現実の社会だったと考えるわけです。

演歌はもともと川上音次郎から始まりました。街頭で政治メッセージを歌う。識字率は高かったんですが、それでもやはり川上音次郎の場合は歌で政治的な主張をやり、添田唾蟬坊の時代からはニュースを読んで、その後、冊子を5銭で売って生計を立てていく。それが物すごくよく売れた時代です。

歌の読み売りといいますか、これは読売新聞の名前にもなっている「読み売り」なのです。これはすごく市民の支持があった。演説の「説」を「歌」に代えたのが「演歌」。まさに演説を歌でやるという感じでした。演歌を歌っていると、弁士中止をやるんです。それを防ぐために市民が街頭で演歌師をブロックして守った。そんな時代だったわけです。

これは明治からそうでしたが、それが大正になって、貧乏学生がバイオリンを持って生計のために弾き語りをやった。当時バイオリンを弾いていれば吉原ですごくもてたという話があります。不埒な輩も出てきたので、添田唾蟬坊親子は演歌師を組織化します。このころ「壮士節」ともいい、苦学の書生が歌うイメージが「書生節」という名も生まれました。

「故郷」や「もみじ」、「朧月夜」、「春がきた」をつくった芸大の先生の高野辰之という人は、添田唾蟬坊というのは明治が生んだ社会詩人の第一人者と、戦前に書いています。それぐらい多作であり、権力に対して常に自由精神で臨んでいった。ただ、彼は一度も検挙をされたことがない。つまり暴力は絶対しない。尾行がずっとついてい

ましたが、尾行から頼まれて、深川の警察署の署長を俳句の弟子にした。本人は俳句をやっている、**「唾蟬」**というのは、セミだけど鳴かないという意味の俳号です。それぐらい社会の中で支持もされていたし、川端康成が唾蟬坊の一文を引用したりもしています。それぐらい大きな存在だったわけです。

高田渡さんが1960年代にプロテストソングとして紹介をされました。アメリカのフォークソングのメロディーを借りてやったので、わたしはもとのメロディーでやってみようかなと思い、講演の際に披露させていただいています。

(図8)

川上音次郎の時代は街頭です。添田唾蟬坊は楽器を使わなかったようですから、こんな格好で歌っていた。これは**「オッペケペー」**です。**「権利幸福嫌ひな人に自由湯をば飲ませたい。貴女に紳士のいでたちで、うはべの飾りは好いけれど、政治の思想が欠乏だ。天地の真理がわからない。心に自由の種をまけ」**。こういうことを言います。

長男**「さつき」**は、曾我廼家五郎がつけた芸名と言われていました。文筆家としては添田知道の本名で多くの江戸風情などの著作を残されました。彼がいたので、唾蟬坊の話はよく残っています。父子とも浅草の人だったので、浅草弁天山に句碑が残っています。

「のんき節」は、なかなか強烈な歌詞です。石田一松が継承しまして、彼は戦後タレント議員の第1号になります。**「生存競争」**という言葉が出てきます。よくわからなくて、何で**「生存競争」**なんて言うのかなと思ったら、明治の初めに、福沢諭吉の**「天賦人權論」**、人間にはすべて人権があるんだということでヒューマンイズムの論を張るわけです。それに対してダーウィンが紹介されると、**「権利を持っているのは勝ち残った強いやつだけだ」**となる。これはまさに今のアメリカニズム。強いものが報われる社会。基本的権利さえないということを日本で言い始めます。**「天賦人權論」**否定論者がたくさん出てきた。考えるにヒトラーもそうかもしれません。国家もそうです。強くないものは廃れていくから、強くあれということで、**「生存競争」**という言葉は**「天賦人權論」**の反対語として使われていくわけです。

第1次大戦後に好況になって成り金が出てくる。成り金はいかぬではないか。成り金という火事場泥棒の幻燈を見せて、貧民学校の先生が働けば成り金を得られるということを教えたといひます。例えば昭和にあった津波の話が出ています。津波は天災だと思っはいけない、公共が自分たちの福利を戻してくれなければいけないという

ことを強く言っているわけです。

(図 11)

学校の先生はえらいもんじゃさうな
えらいからなんでも教えるさうな
教えりゃ生徒は無邪気なもので
それもそうかと思ふげな
ア、ノンキだね

成り金といふ火事ドロの幻燈などを見せて
貧民学校の先生が
正直に働きゃ みなこのとおりに
成功するんだと教へてる
ア、ノンキだね

万物の霊長がマッチ箱みたよな
ケチな巢に住んでる威張ってる
嵐にブッ飛ばされても
津波をくらっても
「天災じゃ仕方がないさ」ですましている
ア、ノンキだね

生存競争の八街走る
電車の隅っこに生酔い1人
ゆらりゆらりと酒飲む夢が
さめりゃ終点で逆戻り
ア、ノンキだね

(図 12)

浅草六区はオペラの時代で、そのころは全部日本語でオペラを上演しています。「カルメン」は、下町の年増女みたいな「カルメン」です。「スペインの赤き土が」とか何

とか、弁士がうたいあげる。それでも日本語での翻訳上演はすごいことです。今、オペラを見にいったら、字幕を追ったりしますけれども、そうではなくて提供する側が、ペラゴロと呼ばれたオペラのごろつきというかオペラ漬けになっていた学生あがりが出て、編曲や訳詩をしています。

(図 13)

木馬館です。もうちょっと後の時代になると東京もアールデコのデザインになります。そういう意味では、この時代は、庶民が「カルメン」も知り、身近でアール・デコも体験していた。その庶民の力は結構すごいのではないかと私はこれをやり出して随分見直した。青白きインテリアが大正の権化みたいになっていますが、そうではなくて庶民のほうで国際化した感覚を等身大で持っていた気がします。

(図 14)

「現代節」という歌です。明治から大正になって「現代」というのが流行後になりました。明治45年、平塚らいてうの「青鞥社」が発足をして、吉原に乗り込むような人たちが出てくるわけです。イプセンの「人形の家」というのがあります。最近は何も知らないんですが、「人形の家」は、ノラが家を出て自立するという物語です。

堺利彦が訳詩、監修をして、添田唾蟬坊が「人形の家」演歌版をつくった。後ほど松井須磨子と島村抱月でやっていましたが、それを歌にしてみたわけです。演歌はそんなものまで飲み込んでいました。

そういう世相を踏まえて、「現代節」です。

(図 15)

新案特許品よくよく見れば
小さく出願中と書いてある
アラほんとに現代的だわネ

独身主義とはそりゃ負け惜しみ
実のところは来人がない
アラほんとに現代的だわネ

(次は平塚らいてうのことです)

新しい女といふてるうちに
いつの間にやら古くなる
アラほんとに現代的だわネ

次は人形の家です。

あまい言葉もまたおどかしも
さめたノラには甲斐がない
アラほんとに現代的だわネ

貧にやつれて目をくぼませて
歌う君が代千代八千代
アラほんとに現代的だわネ

よくこんな歌詞を上演していたと思います。これで捕まらずに生きていたものです。
こんなものが昔はやれていたんです。

3. 景観を誇示する都市～「東京節」が謳歌した帝都

(図 16)

「東京節」です。歌詞は東京がどんなに立派になったか。大正時代、先ほどの堺利彦がやっていた売文社の給仕を添田唾蟬坊の息子の知道さん（さつき）がしていて、お掘り端を通過して神田の正則外語学校に日々通うときに東京が変わっていく風景を見て、それを1番の歌詞にしたんです。2番は、東京一の繁華街の浅草の歌です。3番は、職業尽くしです。職業尽くしの最後に「歌の読み売りどうじゃいな」というところに、自分たちの誇りが託されています。

この歌詞に続くのは第1次世界大戦が終わったときの世界情勢の歌い込みです。

(図 17)

東京の中枢は丸の内

日比谷公園両議院
いきな構えの帝劇に
いかめし館は警視庁
諸官省ズラリ馬場先門
海上ビルディング東京駅
ポッポと出る汽車 どこへ行く
ラメチャンタラギッチョンチョンで
パイノパイノパイ
パリコトバナナで
フライフライフライ

東京で繁華街な浅草は
雷門、仲見世、浅草寺
鳩ポッポ豆うるお婆さん
活動、十二階、花屋敷
すし、おこし、牛、天ぷら
なんだとこん畜生でお巡りさん
スリに乞食にカッパライ
ラメチャンタラ（以下同じ）

東京はよいとこ 面白や
豆腐、みそ豆、納豆、桶屋
羅宇屋、飴屋に甘酒屋
七色とんがらし、塩辛や
クズーイクズーイ、下駄の歯入
あんま、鍋焼き、チャンしゅうまい
唄で読売やどうちゃいな
ラメチャンタラ（以下同じ）

これには長いバージョンがあって、日本各地を歌うものがつくられていきます。そ

れぐらい大ヒットになりました。

「ラメチャン」とは何だろうというと、添田知道が売文社からお父さんの原稿を取りに行ったときに、添田唾蟬坊が食堂の洋食メニューを見ていた。そこに並ぶパイなど洋食のメニューを読み込んだ歌を一緒につくれと言われた。ラメチャンタラギッチョンチョンでパイノパイノパイは、その発展形で、ラメはデタラメです。どうせこの世はでたらめだというラメチャンというのをつくったわけです。

(図 18)

メロディーはジョージア行進曲です。当時、社会鍋をやっていた救世軍が街頭で原曲を日本語の歌詞で演奏していました。もともとヘンリー・クレイ・ワークという人の歌で、南北戦争、例の「風とともに去りぬ」のアトランタ攻めのときの北軍の進軍を歌った歌詞です。原曲をユーチューブで流していると、現在でも南部の人から「やめろ」という抗議が来る。つまり、北軍による南軍虐殺の歌なんです。それが救世軍によって日本に入ってきて、唾蟬坊親子は街頭で毎日、社会鍋のそばで流れているのに接していた。それを使ったわけです。これをつくったヘンリー・クレイ・ワークは、平井堅さんが歌った「大きな古時計」の作曲者でもありました。

(図 20)

これがヒットしたものですから、続編をつくれと言われて「平和節」というのをつくります。これが大正7年の第1次大戦が終わったときの歌です。

(図 21)

めでたい めでたい おめでたい
戦争がすんでおめでたい
物価が高いのもおめでたい
花火をあげろ ハタ立てろ
いざ祝へ みんな祝へ
天下太平 おめでたい
日本が一番おめでたい
ニホンマイハタカイカラ
パイノパイノパイ
ナンキンマイやトンキンマイデ
フライフライフライ

ベルサイユ条約が結ばれるんですが、そのときのことを歌にしました。今我々はサミットに誰が集まっているか知らないのですが、このときはちゃんと演歌でそれを伝えようとしています。

これが絶妙に、当時のアメリカのウィルソンの姿勢、イギリスの首相のロイド・ジョージの姿勢、全体の議長のフランスのクレマンソーの姿勢を巧みに読み込んでいます。

それから、西園寺がケータリングをするために灘万の料理人を連れていきました。そのときに、「はなちゃん」というのが出てきますが、西園寺公望は終生結婚しなかったのですが、可愛がっていた若い女性を同伴した。それをおもしろく歌い、現地速報としたわけです。

(図 22)

世界の平和はどうなるか
フランスパリーに集まって
損はあるまい ウィルソン
冗談ばかり ジョージさん
何もくれない クレマンソー
灘万料理は西園寺
どんな御馳走ができるやら
ハナチャンタラベッピンサンデアイキョモノ
パリッ子トキョウソウデ
フレーフレーフレー

これは別にスキャンダルにもならず、おもしろく歌われていた。パリッ子と競ってこいという激励の歌です。

添田唾蟬坊・知道親子は西園寺公望が好きだった。西園寺公望は、フランス仕込みの政治感覚や市民感覚を持っていて、新橋、柳橋で遊ぶ元老だったんです。そのために酸いも甘いもわかっている。つまり、上の方は上の方にふさわしく、世間の情愛の感覚もある人として西園寺という人を見ていた。

(図 23)

表現者は、上から目線といったらいけないのかもしれませんが、啓蒙していくという意識が強かったということは、ちゃんとこういうところに出ています。米騒動のために、日本米は高いから食えなくなった。南京米とかベトナムの東京米を食べるようになっていました。

4. 帝都炎上の惨禍～大震災をたどる演歌

関東大震災が大正12年9月1日に起こります。マグニチュード7.9。死者は、いろいろな説がありますが、最近では10万人をちょっと切った数字が出ています。それでも物すごい人数が死にました。家屋は東京、横浜では60%～70%焼けてしまった。震害、地震で倒れたよりも火災の被害のほうが深刻だった。本所被服廠跡、今の横網公園、江戸東京博物館の北側のところです。当時、添田知道が書いているのを見ると、誰かが、とにかく被服廠跡へ逃げろと言った。そこは空き地で、元の被服廠というのは軍隊の服をつくる工場でしたが、当時東京市が買収して公園にかえていた途中だったんです。被服廠に行けば大丈夫だといってみんなが空き地に逃げ込んだところに火炎の竜巻が起きました。

関東大震災は火災がまる2日間続きました。築地の本願寺は当初、震害は無傷に近かったが、銀座のほうから貫い火して、結局焼失して現在の伊東忠太の建物に変わっていくわけです。それぐらい火災の被害がすごかった。語弊がありますが、横網公園で3万8000人が蒸し焼きになった。そういう悲劇があって、その悲劇からどう立ち直るかというのが帝都復興でした。

(図 24)

当時の写真で、皇居お堀端です。これが警視庁です。「いかめし館は警視庁」や、帝劇など歌に歌われた、それらが全部焼けてしまう。今のサラリーマンよりきれいな格好のひとびとが茫然と焼失する帝都を眺めている。9月1日で暑かった。文明というものが崩壊していくのが悲しいかという風景だと思います。

(図 25)

警視庁はちょうどお昼時だったので、昼飯で火を使っていたんだと思います。こういう具合に警視庁が焼けた。これは今の警視庁の場所ではなくて、丸の内警察署の位置です。

帝劇も三越も大被害です。

(図 28)

(図 29)

(図 30)

浅草の十二階です。バルトンの設計です。当時の浅草にはひょうたん池というのがあってしましたが、この界限に料亭やあいびき宿がありました。震災で、十二階は真ん中からポッキリ崩れ落ちてしまう。そして、池は埋めたてられ、当時を偲ぶよすがも失われてしまいました。

(図 31)

(図 32)

今の発展途上国の被災風景みたいですね。向こうに東京商工会議所と東京会館。そういうところでこんなトタン板を拾ってきて、これを屋根にして、シェルターをつくってみんなで暮らしていた。皇居のお掘りの内側です。こんなところからよく立ち直ったと思います。

いろいろ歌を手がけていますが、私の心根としては次の1曲のためにやっているようなところもあります。震災の風景をちゃんと叙事詩的に歌っていた歌が残っています。吉原版などいろいろあります。今日は吉原版を抜いています。それでもそここの長さがあります。

(図 33)

時それ大正十二年九月一日正午時

突然起こる大地震

神の怒りか龍神の

何に恐るる戦きか

大地ゆるぎて家毀し

瓦の崩れ落つる音

電柱さけて物凄く

潰れし家のその中に

呻きの声や叫ぶ声
文化の都一瞬に
修羅の巷と化しにけり

火の手は起こるここかしこ
狂へる風に煽られて
乱るる炎 火の柱
天に沖する黒煙り

老若男女分ちなく
右往左往に逃げまどふ
満都の人の狼狽は
実に一幅の地獄絵よ

悪魔の火の手はすさまじく
官省、帝劇、警視庁
三越、白木、松阪屋
枢要の街をなめて行く

折しも一日雑踏の
歓楽郷の浅草は
先づ十二階崩れ落ち
大劇場も活動も

またたく隙に灰塵に
帰するもあはれその中を
女子どもの逃げまどふ
姿みじめに見えけるが

五万有余の人達を

加護せしものか観音堂
焼け野の中に悠容と
聳えて立てる屋根瓦

阿鼻の叫号の被服廠
ここの広場を頼みとし
集まり来る避難者は
三万五千を数えしな

相生署長 山内
部下を率いて警戒のうちに
頼みの広場さえ
あやさんとは恐ろしき

紅蓮の炎に囲まれて
残る一方大川に
熱さのために耐えかねて
飛び込む者よ溺る者

中に集まる人の上
散るよ火の雨火の礫
必死に払ひ落とせども
猛る炎は容赦なく

家財道具に燃え移り
中へ中へと迫りゆく
怪しと見るや轟々と
突如起こりし旋風

人も荷物も巻き上ぐる

この世からなる焦熱の
地獄に起る叫喚は
例ふもおろか言葉なく

子供を抱へし若き妻
父母を護れる若人も
今は術なく抱き合ふて
焰の中に倒れける

蕭条濯ぐ秋の雨
そぞろ哀れを身にしみて
上野の山に来て見れば
大東京の影もなく

見渡す限り焼け野原
変り果てたる様なるよ
感慨胸に迫り来て
噫と一言洩らすのみ

こういう歌です。これは私が歌い継ぐべき歌だと思ってやっています。

5. 復興の速度感～「コノサイ」こそ民意

(図 34)

大変な被害になりました。東京会館、名建築です。神戸の大震災のときに市役所が
だるま落としみたいに階が崩れましたが、そんな形で座屈をしています。

(図 35)

郵船ビルです。この辺は焼けなかったから、この程度で済みましたが、海上ビルも
みんな被害を受けます。

(図 36)

これは芝のほうにありました藤山図書館です。藤山雷太が寄附した工業関係の書籍を集めていました。今は慶応の中にあります。

(図 37)

これは足立だったか、煙突が壊れた。

(図 38)

三越の中はこんなぐあいだったんですね。たくさん鉄筋が入っていたんですが、かなりひどい状態になっています。

(図 39)

どうして復興できたかという、国土壊滅ではなかった、帝都だけがやられた。関西の経済力がすごく強かった。震災後、関西の店がいっぱい東上してきて、東京の商人は困ったりするわけです。

震災復興ですが、手形をいっぱい発行して、これが焦げついて昭和恐慌になっていきます。

もう1つ、我々の領域からいいますと、モダンデザインがヨーロッパで勃興してきた時期で、何もなくなっただけで、ここでモダンデザインをやってみようという気風が盛り上がります。それは写真でいうと新興写真、モボ、モガはアールデコの風俗でした。そして、地下鉄が開通します。百貨店も次々復興建築の大店舗で再開して、地下鉄は百貨店買い物パスもつくりまします。

(図 40)

ポスターをつくって、貯金しなければ戻らぬぞということを啓蒙します。とにかく生きていかねばならないので、家に残った家財を日比谷公園のお堀端に座って、みんなで売った。特に金持ちの素封家は、お父さんが亡くなると生活力がなくなっただけで、こういうところで売り食いせざるを得なくなりました。

(図 41)

大正12年の終わりごろにバラック建築図集という写真集が出るくらいですから、物すごい速度で民間も復興していくし、公共もやっていく。

(図 47)

帝都復興の話をしてします。首相がいなかった。それこそ西園寺、松方正義が決めて、山本権兵衛海軍中将を首相にしようとしたけれども、政党対立があつて組閣できなかつた。

った。震災が起こったときに内閣がないという状態だった。翌日、赤坂離宮の外で認証式をやるんです。1日に地震が起こったからしようがない、ここは呉越同舟でいこうということで後藤新平が内務大臣になります。9月3日摂政の宮お沙汰があり、人心の動揺を抑えようとします。それから、朝鮮人が暴動を起こしているとする流言蜚語の取り締まりも意外と早く9月7日に出しています。閣議が9月6日に開かれて、このときに後藤新平が不謹慎にも、とにかく絶好のチャンスだ。40億円使って東京の土地を全部買い上げて、一度公有化して、完全な区画整理をやって払い下げてやろうという案を出します。

9月12日になって、摂政の宮がもう一度詔書を出します。これは今、復興記念館にあります。これがよかった。もう東京はだめだ、遷都するしかない、大阪に行くしかないとかいう話になったときに、遷都はしないんだ、それから、復旧ではなくて復興するぞということを言います。それから、専門の機関をつくる。もちろん政府が書いたんですが、これが皇太子（昭和天皇）の名前で発布されて、人心は落ちついて、ここから一気に復興に持っていきます。

(図 48)

続いて国と東京市で復興するぞという声明を出します。このときに後藤新平は、まさに40億円案というのを出して、また大風呂敷と言われるわけですが、とにかくビジョンを出す。出すことによって大衆も立ち上がれるということをやっております。

9月27日もう帝都復興院ができて、10月1日に辞令が出る。それに対して何をしているんですかというのが今の話です。

10月6日に、市長時代に東京の改造案を諮問してもらったピアード、この人はコロンビア大学の先生をやめてニューヨークの市政調査会の研究者ですが、彼を呼んで復興案をつくらせます。

議会とのことでいろいろなことがあり、復興予算は40億円が13億円になり、最後に4億円台まで下がりますが、とにかく議会ももめながらも何とかまとめようということでやっていきます。4億円台まで削られてやっと帝国議会を通過しましたが、それでも最後に現場では歩どまり7億2000万円残ったので、私はよかったのかなと思います。

後藤新平は、鉄道省の総裁をやっていたり、いろいろなことをやっている人です。彼は科学官僚、テクノクラートが好きでした。そのために方々で技術官僚の有能な人

たちにつばをつけてあった。それをこの際全部帝都復興院に呼び集めるということをやっていきます。

(図 49)

偉いと思うのは、後藤新平を明治が育てていたということです。この人は水沢藩の生まれで、田舎育ちだったんですが、それこそ伊藤公をはじめ、次々とかわいがる人が出てきて、私費ではあったけれども、ドイツに留学、ミュンヘンで医学博士の学位を取ります。そういう具合に前途有為の若者を見ると、国家経済が厳しくても、そのときにその人に投資をしていく。嫉妬なんかしない、次の若者を探して育てていくということ、1人の人がやったのではなくて、伊藤公もやれば、児玉源太郎もやった。多くの人たちが後藤新平を育てて、ここに置いてあった。それがよく役に立ったわけです。

その後藤新平に対して、添田唾蟬坊の歌を見ていると、市民は結構信頼感を抱いていた。それによく知っていた。東京市の助役の名前を大衆の全員が知っていた。そんな時代だったので、お上にひれ伏してというよりは、官民の相互信頼というのはそれなりにあったのが帝都復興をなし遂げた原動力だったと考えられるわけです。

(図 50)

公共主導であって、摂政の宮、宮中、内閣、帝国議会、東京市、横浜市も入れてもいいかもしれませんが、こういう分担がうまくいった。これを機に公共で復興小学校みたいなものをつくって、都市を不燃化する。火事が大きかったから耐震より不燃化とっていいと思います。燃えない都市をどうやってつくるかということで、一気に117校の小学校をコンクリートでつくったというのは世界的にも例のないことです。まさに公共と政治のヘゲモニー、それは立派なことだったと思います。この時代にできたものはたくさんあります。同潤会もできて、都市生活も始まります。公営食堂もできた。

(図 51)

結局、区画整理は、民間にやってもらい60カ所を完成させました。主要な通り、昭和通りや靖国通りは全部このときにできていきます。橋は何と400も6年間で新しくかけたんです。橋を6年間で400かけるというのは、できる技ではないです。かなり焼け落ちて、相当ひどいものがあと200あり、復旧したものも足すと600弱。6年間で600の橋をかけ直す。1年に100の橋をかけるというのは、1週間

に2つずつ竣工していくということです。どうしてこんなことが可能だったのかという感じがします。3カ所の大公園。これも今残っています。52カ所の小公園。コンクリート化した117校。驚異的な実行力を感じます。

(図 52)

昭和7年に展覧会をやったときのパネルが復興記念館に残っていて、帝都復興事業についてはこれが一番わかりやすいですね。直営がどれぐらいあったのか。総額がここに7億2450万円と出ています。何に幾ら使ったかが、円の大きさになって表現されています。街路整備に391億円、区画整理は民間でやってもらったので、相対的には少なく済んだと考えるべきでしょう。そして橋です。次に運河。さらに下水道の整備も進めました。(図 59)

帝都復興祭という花電車が出ました。コックさんが仕事の途中で手を休めて沿道に出て、見に来る。花電車は東京中を1週間走りました。

(図 60)

後藤新平という人は、江戸末の生まれで、内務省の衛生局長になった。その後汚職で捕まったりしますが、日露戦争の戦略企画者の児玉源太郎が台湾総督になったので、後藤新平を招いて民生局長に抜擢します。このとき部下に新渡戸稲造がいて、H・G・ウェルズのSF小説「パーティシペーションズ」を訳させるんです。SF小説には、幅広い6車線の道路など、そういう話が出ていた。後藤は公衆衛生をやっていましたが、都市をつくろう、都市をつくれれば人間は幸せになるんだということに新渡戸稲造にSF小説を訳してもらったことで目覚めた。児玉源太郎に請われて南満州鉄道の総裁になりますが、そのときに長春など満州で都市づくりを方々で手がけます。自動車交通前提の大都市づくりを進めます。

その後、外務大臣になり、シベリア出兵で失敗します。鉄道院の総裁もやりました。NHKの初代総裁など、本当にいろんなことをやっている。渋澤栄一に頼まれ、外務大臣よりはるかに格下だった東京市長に就任します。それは東京を何とかしなければいけないという渋澤栄一の思いがあったわけです。

ロシアへの関心は高く、日ソ国交樹立の陰の仕掛け人になります。これで右翼に襲われます。震災が起こったときに内務大臣をやって、その後そう長くは生きてなかったんです。安田善次郎の出資をもらって、東京市政調査会を設立、今は安田・後藤記念東京研究所になっています。これはニューヨークの市政調査会、先ほどのビアード

にならった。後藤は、何事も調査しろ、すべて科学的に処理しろ、情念や情実でやっ
てはいけないということを強く言います。科学的官僚、まさにテクノクラートです。
その彼だからこそ帝都復興は成り立ちます。

困った人の救済活動は物すごく熱心でした。それはこの市政調査会の大きなテーマ
でもありました。

ノーブレス・オブリージュ、つまり上に立つべき人の資質と自覚がありました。一
度汚職で捕まったりしていますが、それを別にすれば、ある種の清廉潔白だというこ
とはみんな知っていました。自分のためや土建業界のために「8億円計画」をぶち上
げたのではないということを市民が知っており、信頼されていた。

(図 62)

これは復興のとき大流行した歌です。いろいろなバージョンがあります。

いろいろな歌詞に意味があって、なかなかおもしろい。金持ちがみんな財産を失っ
て、いい気味だというのではないんですね。添田唾蟬坊自身も回顧に書いていますが、
一瞬平等になった。全員が財産を失った。みんなが焼け跡に立ち尽くしている。特に
彼は上野公園から日暮里のほうに逃げていくんですが、そのときに彼の連れていた演
歌本の販売をやっていた人が突然笑い出して、みんな何もない、こんなことはなかつ
たと言って喜ぶという話を書いています。金持ちが物を失ったというよりは、大衆が
ずっと夢見てきた平等というものが、震災という困難によってようやく成就したとい
うニュアンスが強くあった。

家は焼けても江戸っ子の
意気は消えないみておくれ
アラマ オヤマ
たちまち並んだバラックに
夜は寝ながらお月さま眺めて
エーゾ エーゾ
帝都復興 エーゾ エーゾ

田舎の父さんお見舞いにやってきて
上野の山でびっくり仰天し

アラマ オヤマ

すっかり焼けたと聞いては来たが

焼けたや焼けねえやら

どっちを向いても屋根ばかり

帝都復興 エーズ エーズ

嬢が亭主に言ふやうは

お前さんもしっかりしておくれ

アラマ オヤマ

今川焼きさへ復興焼きと

改名しているぢゃないか

お前さんもしっかり

エーズ エーズ

亭主復興 エーズ エーズ

騒ぎの最中に生まれた子供

つけた名前が震太郎

アラマ オヤマ

震次に震作シン子に復子

その子が大きくなりゃ

地震の話の種

エーズ エーズ

帝都復興 エーズ エーズ

学校へ行くにもお供をつれた

お嬢さんがゆであずきを開業し

アラマ オヤマ

はづかし相にさし出せば

お客が恐縮しておじぎをしてうけとる

エーズ エーズ

帝都復興 エーズ エーズ

ツンと澄ましていた事も

夢と消えたる奥様が

アラマ オヤマ

顔の色さへ真っ黒けのけ

配給米がほしさに

おしたりおされたり

エーズ エーズ

成程こいつは

エーズ エーズ

四分板叩いて もうしもし

ちよいと隣のおかみさん

アラマ オヤマ

今日は何々も貰ってきたの

玄米二合に缶詰一つで

エーズ エーズ

台所復興 エーズ エーズ

乗り合い自転車ガタクリ馬車が

町を通ったも昨日の夢よ

アラマ オヤマ

今では電車がチンチンゴー

乗り換えのたんびに五銭づつとられて

エーズ エーズ

半平さんのぼっぼは

エーズ エーズ

焼け野の中にそびえ立つ

観音さまの御利益は

アラマ オヤマ
今日この頃の繁昌に
毎日ドエライお賽銭も上って
エーゾ エーゾ
浅草復興 エーゾ エーゾ

銀座街頭 泥の海
金を蒔こうといふたも夢よ
アラマ オヤマ
帝都復興善後策
道もよくなる町もよくなる
電車も安くなる
新平さんに頼めば
エーゾ エーゾ

こんな感じで新平さんが出てきます。もちろん後藤新平です。半平さんというのは当時東京市の電気局長をしていた長尾半平のことです。長尾半平が震災を機に、乗り換え賃を市電では取るようにした。乗り換えると物すごい高い値段で市内を移動しなければいけなくなった。それを揶揄して解決を後藤に求めたものです。

(図 63)

「三田二平」といって、助役で「田」のついたのが前田多門、池田宏、永田秀次郎の3人、「平」のついたのが市長の後藤新平と電気局長の長尾半平の2人。「三田二平の市政」といった。畳というの旧字は「田」が3つついているので、後藤が「畳に任せればすべてよし」とも言っていた、そんな話があります。それが巷間伝わっていて、自分らのためにやってくれるんじゃないかという期待がすごく強くあった。

西園寺、渋澤栄一ら政財界には大物が綺羅星のようにいた。安田善次郎は亡くなっていますが、鳩山一郎、春子夫妻もしっかりしていた。十河信二は後に新幹線を実現した鉄道省の切れ者です。大河内正敏は、理化学研究所で日本の科学技術を牽引しました。細民救済者の椎名龍徳ら。ベストシフトができ上がっていました。

(図 64)

震災直後のキーワードは、「この際」です。後藤新平の「この際やっしまおう」が伝播して行って、この際これをやってほしい、この際、羽田空港をつくろうとか、この際、乗馬場をつくれとか、全員が「この際、この際」と声をあげました。震災でやられたから、この際やれなかったことをやってみようという風潮が広がってきます。

これは唾蟬坊の歌詞です。

コノサイ、コノサイ、コノサイだ
なんでもかんでも コノサイだ
アラマ オヤマ
コノサイこうして貰ひたい
コノサイですから勘弁して下さい
エーゾ エーゾ
コノサイ流行 エーゾ エーゾ

チンチンドンドン 復興院
鐘だ太鼓だ鳴り物入りよ
アラマ オヤマ
御膳ならべて チンドンドン
大きな風呂敷ふしぎな風呂敷
エーゾ エーゾ
のびたりちぢんだり
エーゾ エーゾ
風呂敷ひろげてコノサイだ
風呂敷たたんでコノサイだ
アラマ オヤマ
何でもかんでもコノサイだ
お膳立てばかりで御飯もたかず
エーゾ エーゾ
バラック内閣 エーゾ エーゾ

朝鮮人虐殺もあったし、社会主義者を全部殺してしまおうとしたひとびともいた。甘粕正彦がやったわけでもないということですが、甘粕大尉の歌があります。このときは甘粕は裁判にかけられて懲役10年だが、実質はフランスに追放になった。甘粕はフランスで映画を見ます。それで彼は満州に行って、満州映画社の代表になり、李香蘭を使ってさまざまな映画をつくります。甘粕はソ連が入ってきたときに自決して亡くなってしまう。甘粕も、歌になっています。

甘粕大尉はえらい方
大和魂の国土です
アラマ オヤマ
大和魂今日この頃は命ほしさに
空舌二枚の使ひ分け
ゴマ粕大尉は エーズ エーズ

こんな歌が歌われていた時代です。言論弾圧の時代というけれども、結構しっかり庶民にも情報は伝わっていて、甘粕は裁判でうそをついている。そんな話が歌になって残っています。

6. 燃え落ちた旧社会～純白のキャンパスの出現

本所被服廠跡は、震災時にすでに公園としての工事が進んでおり、多くのひとが焼死した場所でもあり、ここに追悼と記念の施設が建設されました。

両国駅が最寄り、現在は国技館、江戸東京博物館を抜けて、横網公園に至ります。震災記念堂、復興記念館があり、傍らの安田善次郎邸の庭園のなかに本所公会堂が残っています。

バブルの時代ぐらいいまで有効だった都市基盤はこのときにできてきます。地下鉄、下水道施設、コンクリートの学校建築、同潤会といった都市施設です。建築を明治以来ずっと西洋から学習していましたが、そうではなくて、同時代の表現としてやってみ

ようという意欲がありました。東京に世界の同時代表現、新表現のための純白のキャンパスができたと建築家たちは前向きに受け止めました。分離派や日本インターナショナル建築会やバラック装飾社など、東京市の若い建築家、さらに日本在住のアントニン・レーモンド、ナチス・ドイツを追われたブルーノ・タウト、そういった人たちの活躍の舞台です。

伊東忠太はそのときに、大東亜共栄圏を認識していて、コンクリートで大東亜の建築はできないかということをやっています。東洋趣味としての帝冠様式が、ここに生まれてきます。震災記念堂、築地本願寺、湯島聖堂など、日本建築のあり方を追究した見事な建築群が彼の手で出現します。

もう1つ、よかったのは、土木界の活躍です。土木は戦後あまり景観上もいいものをつくってないが、「聖橋」は分離派の建築家の山田守、「清洲橋」もやはり分離派の山口文象が関わり、水準の高い橋梁群を実現します。川幅100メートルを超える隅田川の橋梁は、「永代橋」をはじめ世界でも類を見ない水準のものを一気に実現させました。

(図74)

大正12年の『バラック建築図集』を見ると、いかに早く銀座の商店が立ち直ったかが手にとるようにわかります。バラックゆえの気楽さといった次元ではなく、遠藤新をはじめ、当時の人気建築家が本建築では出来なかった表現を実に自由闊達に実現していきました。そこにはライト風、アール・デコ、ドイツ表現派、キュビズムなどの当時の世界最新の表現が試みられ、震災で焼失した都市が、見た目にも活気づいたことが読み取れます。

今和次郎が組織した「バラック装飾社」が設計したカフェキリンは、キリンビールのキリンの絵が描かれています。バラック装飾社は、お金をもらってバラック建築の外壁に絵を描くという仕事をやります。カフェキリンの内部はとても仮設建築とは思えない美しさです。

(図84)

復興計画には主要街路22幹線をつくるというのがありました。東京日日新聞で懸賞募集して、復興がなった道路名を決めました。今、われわれが呼んでいる「昭和通り」の名前などは懸賞募集で決まりました。最重視された「1号幹線」である昭和通りは、真ん中にグリーンベルトが設けられました。ニューヨークにもパリにもないよ

うな立派な道路です。

「2号幹線」の靖国通りは震災前は急坂で有名でした。ここには何銭かもらって車の後を押す職業さえあった。それぐらいこの坂は急で、片側を占めていた市電の軌道だけは緩やかにしていたが、この坂を全部削り取って現在の緩やかな姿に変えるということをやります。

大公園は3つです。浜町、墨田、錦糸、全部残っていますけれども、全部もとの形をしていないのが悲しいです。浜町公園は公共施設を乱雑に建ててしまっていて、すごく狭くなった。復興小学校に付属して52の小公園をつくりました。

7. モダニズムの帝都～復興小学校の奇跡

(図 91)

東京市の小学校は、震災発生時全195校のうち117校が焼けてしまった。それを一気にコンクリート化して新築しました。復興を世界にアピールするのに復興小学校は活用されました。高輪台小学校の大きなガラス窓からいがり頭の子どもたちが下を見ている。東京市の国際資料に必ず出てくる写真です。

復興小学校は最近父兄にも人気があり、泰明小学校や黒門小学校は入学希望者があふれている。お母さんたちからは絶対壊さないでと学校はいわれている。

入谷小学校や九段小学校はドイツ表現派のパラボラアーチが印象的です。望楼のある広尾小学校は校長先生がすごく大事にされています。小島小学校は台東区がインキュベーションセンターに使っていて、一般のひとが入れないのは困ったことです。せっかく運動場だったところも駐車場になってしまっていて、アメリカじゃないぞという感じです。きれいですね。不思議な柱が階段に沿って立っています。

(図 97)

四谷第五小学校は東洋一と言われました。復興期の後ですけれども、東京の小学校の代表です。それを新宿区は、吉本興業の本社として貸し出してしまった。あれだけ公共主導で復興をやったわけです。みんなの資産だと認識されているのに、それを一私企業に貸してしまう。わずかなお金のためにそんなことをする現代の日本が、公共の視点で復興が出来ないのはある意味必然の結末です。

城東小学校は、八重洲ブックセンターのすぐ近く、日銀に近い常盤小学校など、都

心にも現役の復興小学校は残っています。

復興小学校に付属して建設された小公園は、どこも現役です。元町小学校の付属小公園はナチスのワシみたいな彫刻があります。噴水など完全にモンドリアン・パターンです。モダンデザインできれいです。表通りからは小さな丘をあがる配置ですが、その階段はバロックの庭園風です。

元加賀公園には壁泉が残っています。湯島小学校の公園も残っています。当時設置されたコンクリートの滑り台は東京中の公園に今もかなり残っています。

(図 108)

同潤会の話もしておきましょう。同潤会は、復興のために集まった義援金1000万円をもとにしてつくられました。アパートメントハウスという都市生活ものと細民救済のためのものが両方ありました。一般に同潤会というと前者の話が中心ですが、もともとは社会福祉的な発想が色濃く、江東区の猿江共同住宅は隣保館や病院も付設して、貧困層の救済に力を入れました。

戸建て住宅も結構つくっていました。今でも西荻窪の善福寺では、同潤会を売りにしている不動産屋さんがあります。ビールのコマーシャルで若い夫婦が出てきてそばを打ったりするのがありますが、あんな暮らしをしたいといって、わざわざ崩れかけの家に住みたいという若い人たちに人気があります。

公営食堂というのが当時つくられていました。震災の前からつくっていて、震災で焼け出された人を相手に公営食堂をつくります。

(図 115)

アサヒグラフが記事にしています。大正9年に東京に市設の簡易食堂ができて今年で15年になると、昭和9年に書いています。16カ所できた。1日1万数千人が利用している。1万数千人というのはすごいですよ。1年間に500万人。当時東京市は大東京で350万人時代です。東京都民1人が年に1回は食事をしていたことになります。

この原稿の最後のところに「献立は栄養価を主としたもので、甲定食は10銭」と書いてある。牛乳は嗜好食に入っています。コーヒーの5銭からランチの30銭の間という安い値段で、少なくとも市中に散在する多くの私営、民間でやっている簡易食堂に対して指導的役割を務めている。つまり、公共で食堂をやることによって物価を下

げているということを書いています。みんなが困らないように生活させ、1年間に500万人が使っていたという事実を、今日の「公共後退」の時代にもっときちんと伝えていかなければいけないと思っています。江東区の「深川食堂」だけが現存しています。今は観光センターになっています。

8. モダン行進曲～モボ、モガの昭和東京

(図 167)

モダンというのはその当時流行歌になっていた。飛行機、文化住宅、空中旅館が歌詞に登場する。空中旅館は、高層ホテルという意味です。テレビなんて見たこともなかったのに、モダンのシンボルとしてテレビジョンも歌詞に出てきます。その「モダン節」は昭和4年デスカラ、ル・コルビュジエが「サボア邸」をつくった頃ですよ。日本は、そういう意味では進んでいました。庶民の間でこんな歌を歌っていたわけですから。

(図 168)

川端康成が『浅草紅団』という今のトレンドレポートみたいな小説を書いています。これはなかなかおもしろいものです。「言問橋に頬ずりする少女」というんですね。ちゃんとデータが入っている。158.5メートルと川端康成はちゃんと調べて、「緩やかな弧線で膨らんでいるが、隅田川の新しい六大橋のうちで、清洲橋が曲線の美しさとなれば、言問橋は直線の美しさなのだ。清洲は女だ、言問は男だ。だから、夏子は欄干の鉄に頬をぴったり載せて、『おお、冷たい。』と。橋に頬ずりする、これが新しい感覚として広がっていくわけです。

『雪国』を書いた人がその直前によくこんなものを書いたなと思います。「コンクリートの魅力なんか、最早分かりやうもあるまい。『尖端的だわね。』といふすさまじい小唄映画を松竹蒲田で作るさうな。「鉄筋コンクリートだわね。」といふ小唄映画も今に出来るだらう。」とか、どういう感覚だったのかなと思います。

公衆便所を小学生がみんなですべて掃除している。それはコンクリートがすばらしいので、つい掃除してしまうんだという感覚を書いています。

(図 169)

復興の浅草の中心になったのが「地下鉄タワー」で、よくも東京メトロは壊したなど私は思っています。残していれば観光の中心になった。『浅草紅団』の中で30ページぐらいはタワーの話が出てきます。川端康成が書いたのを知らなかったでしょうか、建築自体もついこの間まで残っていた。それを昭和初期の姿に復元するのはそう難しくはなかった。しかも、川端康成はこの建物の色も全部書き残していた。上がってこの四方に何が見えるか全部書いています。挿絵もついている。地下鉄タワーを『時代の最先端をいく文化の花』と電車の内にまで広告している、地下鉄食堂の屋上で、白い幕の下から木綿の靴下がのぞかせながら、女給が隠れて吹くハァモニカ」、こういう風景。彼はこのころ一種のシュールレアリスムみたいな小説を書いていたから、そのような表現になったわけです。

「都会交響楽」という溝口謙二が撮った映画があります。今は失われて誰も見られない映画です。これはドイツの純粹映画を見て、溝口が撮ります。歌は西条八十の作詞です。「重いハンマア、伊達には揮らぬ」。プロレタリアとブルジョアの対決。こんなものをよく流行歌にしていたと思います。そこにジャン・コクトーの話が入ってきて、スウェーデンバレーで「エッフェル塔の花嫁」をやって、さっきの地下鉄のタワー、「浅草の塔の花嫁なの、私」というくだりが出てくる。世界の文化状況はこのころはすごく近しかった。その同時代のものを自分たちはやっているという感覚をすごく強く持っていた。

9. 結び～なにを学び、なにを残すのか

1925年、治安維持法と普通選挙法が同時にできました。言論封圧。それから、公会堂ブームというのが全国で起こります。例えば豊橋の公会堂。屋上にナチスのワシが載っているような公会堂ができます。二律背反です。民主主義と言論封圧がやってくる。やがて戦時体制になって資材統制が始まって、もう建築はできなくなっていく。そして大空襲になって、戦後はアメリカ主義によって国土が再建されて全部商業主義になったという非常に悲しい話で最後は終わるということです。

ただ、このてんまつを見たときに、民衆にとって世界は近かったし、公共の責任感も強かった。モンスターペアレント流ではない公共に対する要求も強かった。それをどれぐらいに我々としては今次の復興の中で生かしていくか。余りに枠が大き過ぎて

この話は煮詰まっていけないんですが、枠の大きさを保たないと、いつまでも、NHKのルポみたいに、かわいそう、かわいそうになってしまう。建築に関わっている皆さんから見て、こんな仮設商店街はどうなんだというものがどんどんつくられてしまい、お金を浪費していくんです。もう本建築をつくっていなければいけないのに、今仮設をつくっているようなところがあることに憤りさえ覚えます。

皆さんにぜひ意識を持って復興に主体的に臨んでいただきたいというのが、今日の私の最後のお願いです。ご清聴ありがとうございました。(拍手)

谷 どうもありがとうございました。きょうは貴重なお話をたくさん聞かせていただきました。それでは皆様、先生にもう一度大きな拍手をお願いいたします。(拍手)

以上をもちまして本日のフォーラムを終了させていただきます。

(了)



松 葉 一 清 氏